

# 交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

## 第24回 能登半島地震を通じ実感した会員の絆

# 平時に酪農の魅力を発信し続けたから 非常時に相談し合える仲に

地域交流牧場全国連絡会 北陸ブロック(富山県高岡市) (株)clover farm **青沼 光**

### 地域農業と共に牧場を存続させるには 規模拡大が必要

私は広島県出身の1986年生まれ。中学生の頃に酪農家になることを夢見るようになり、そのための勉強を続け、大学卒業後は長野県や富山県の牧場で計6年間実務経験を重ねました。妻と一緒に富山県高岡市でclover farmを開業したのは2015年。飼養頭数7頭からのスタートでした。23年4月には新築の100頭規模の搾乳牛舎と堆肥舎に加え、飼料生産に必要な機械一式を導入し、(株)clover farmとして法人化。現在の総飼養頭数は160頭となっています。

開業当初は小さな家族経営を望んでいました。地域農業の実態や、自ら掲げた経営理念「HAPPY DAIRY COWS」の実現を目指すうちに次第に考えが変化し、この土地で地域農業と共に牧場が存続していくために一定の規模拡大は必要と判断しました。

牧場の経営を拡大しながら、酪農があることで可能となる地域課題の解決に取り組みながら、生乳生産や堆肥の供給以外の酪農が持つ価値を発信し、乳牛が必要とされ、幸せに暮らし続けることができる世の中をつくりたいと思っています。

現在は牧場のビジョンを共有できる妻や従業員に支えられながら、経営管理や牛舎作業全般に加え、飼料生産基盤や地域連携の強化に力を入れています。

私が地域交流牧場全国連絡会(交牧連)の活動に参加するきっかけになったのは、交牧連会員のくろべ牧場まきばの風(富山県黒部市)で研修生として働いたことでした。その頃、40歳以下の酪農家や従業員で活動を行う「クラブユース事業」が交牧連内で立ち

上げられ、その活動に参加するうちに人の輪が広がり、そこからさまざまな刺激をもらうことで、自分の牧場を持つという夢の実現に向けモチベーションを高めていました。

独立後も会員として酪農教育ファームや職業体験受け入れなどを行い、現在は交牧連の理事兼北陸ブロック代表として組織運営に携わっています。

### SNSで被災酪農家への支援募り 消費者からは応援の声も

24年の元日は私も他の酪農家と同様に牛舎作業をしていました。午後4時10分、飼料タンクから台車へ配合飼料を取り出している時に、タンクから流れ落ちる飼料の音とは別の、低くザラつく音が遠くから迫ってくるのに気が付きました。次の瞬間、全ての景色が左右に揺さぶられ、見たことのない勢いで牛舎につるされた換気扇がガシャンガシャンと音を立てていました。

非常に長い横揺れの中、牛はほえながら牛舎を走り回り、子どもが家から飛び出してきて震えていました。ラジオをNHKに切り替えると、緊迫した声が



昨年4月に新築した100頭規模の搾乳牛舎

聞こえ始めました。震源地は能登半島方面。普段から行き来する交牧連の仲間もいます。相次ぐ余震の中、牧場の立地環境を考え従業員と家族を避難させ、私はいつでも牛舎の上へ避難できる状況を確認した上で、ラジオを聞きながら一人で夕方の牛舎の作業を進めました。

幸い、私の牧場では停電や断水などの被害はありませんでした。胸をなでおろしつつも、続く余震と報道に、能登方面の酪農家仲間の状況が心配になってきます。そこに普段から活動を共にする能登の交牧連メンバーから電話が来ました。安否を確認する電話であってくれと、恐る恐る電話を取ると「青沼さん、教えてください！断水で水が来なくて。道路も使えなくなっていて、次いつ餌の配送が来るやら。今ある配合でどうやって乗り切れればいいですか？幸いウチは電気がまだ来てるのでマシな方なんですけど、建物も基礎が割れてしまって、草地にも断層が…」

「ひとまず良かった」と思いながら、状況を確認し対応と一緒に検討しました。私自身も乳牛の管理を続けながら、目と鼻の先で甚大な被害にあっている仲間のために何が出来るか考えた結果、SNSのX(旧・Twitter)を活用した情報拡散により支援の目を酪農に向けてことにしたのです。

ちょうどその頃、普段から音声配信を通じて酪農の理解醸成に2年間取り組んできた全国の仲間と一緒に「#牛乳でスマイルプロジェクト」を軸としたプレゼント企画「#ハッピー乳イヤー」を展開していました。急きょ、このハッシュタグで酪農関連の震災被害を伝えることに理解を求め、被災地の酪農家から送られてくる被害の実態や必要な支援を広く拡散させてもらいました。

人命優先で動くことを重々理解しつつも、牛たち

#### 酪農・畜産農家向け義援金口座のお知らせ

金融機関：石川県信用農業協同組合連合会 本所  
口座番号：(普通預金) 0035667  
名義：石川県酪農協同組合災害義援金(酪農)  
フリガナ：イシカワケンラクノウギョウキョウドウ  
クミアイサイガイギエンキン(ラクノウ)

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先  
(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局  
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295  
メール：koubokuren@churaku.jp  
ホームページ：https://www.dairy-farm.jp/  
フェイスブック：https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】

の命や健康も、それに匹敵するくらい大切というジレンマの中で動き続ける酪農家の思いが通じ、直接消費者から応援や支援を申し出る声を頂けたことが震災に遭った会員の支えとなっていたのではないかと思います。

### 最良の決断ができるよう引き続きサポート

酪農家は日々の業務に追われています。そんな中で、牛乳・乳製品の消費促進につながる活動を続けるのは簡単ではありません。しかし、平時に全国の会員と協力し、現場からしか伝えることのできない酪農の魅力を発信し続けたからこそ、非常時に相談し協力し合える身近な存在になっていたのです。こうした絆が育まれていたことに心強さを感じました。

この原稿を書いている時点で、まだまだ復旧の途上にあたり、再開を考えることすらできない酪農家が多数います。引き続き、被災された会員に寄り添いながら、最良の決断ができるようサポートしていきたいと思っています。



SNSを通じ牛乳消費を呼び掛ける青沼家



SNSを活用した情報拡散。酪農家以外の人も協力してくれた2万件のリポストがあった

**【牧場概要】**  
 牧場名 (株)clover farm  
 代表者名 青沼 光  
 所在地 富山県高岡市佐加野東190  
 総飼養頭数 160頭(うち搾乳牛100)  
 年間生産乳量 約1,000t  
 飼養形態 放し飼いで(フリーバーン)  
 飼料畑面積 5ha  
 牧場スタッフ 5人(本人、妻、従業員2人、アルバイト1人)  
 主な活動 酪農教育ファーム受け入れ(250人/年)、出前授業や講演会講師